

令和7年12月12日
(2025年)

保護者の皆さまへ

千里みらい夢学園
吹田市立桃山台小学校
校長 井波 治男

令和7年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和7年度全国学力・学習状況調査」を実施し、8月に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、今年度は、国語と算数、理科を実施しました。測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析（数値は正答率を表しています。）

●国語《概要》

概要 ・平均正答率は、全体として全国値を上回る結果であった。

- ・「話すこと・聞くこと」の領域では全国値を10ポイント以上、上回っていた。

【各領域の成果と課題】

○話すこと・聞くこと

- ・自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題では、正答率が全国値を上回る結果であった。
- ・目的や意図に応じ、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題（選択式）では、正答率が全国値を上回る結果であった。

○書くこと

- ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考慮することができるかどうかをみる問題（選択式）では、正答率が全国値を下回る結果であった。
- ・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題（記述式）では、正答率が全国値を下回る結果であった。

○読むこと

- ・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる問題（選択式）では、正答率が全国値を上回る結果であった。
- ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題（選択式）では、正答率が全国値を上回る結果であったが、数値は50.8%であった。

○言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題では、正答率が全国値を上回る結果であった。数値は、91.5%であった。

○情報の扱い方に関する事項

- ・情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題（選択式）では、正答率が全国値を上回る結果となった。

●国語科における成果と今後の改善点について

書くことの領域で全国値を下回る問題があったが、全体的に全国値を上回る結果であった。自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫する（事実と自分の意見を区別して書き表すことや資料を活用する等）書き方について問う問題では正答率が低く課題が残る結果となっている。条件に合うように書き表す書き方や資料等を活用してわかりやすく伝える書き表し方を考えるなど、書き表す活動についてさらに取り組んでいく必要がある。

●算数《概要》

概要 ・平均正答率は、全体として全国値を上回る結果であった。

- ・数と計算の領域では、全国値を上回る良好な結果であった。

- ・記述式の問題では全国値を上回るものの、正答率は低く課題が残る結果であった。

【各領域の成果と課題】

○「数と計算」

- ・棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる問題（選択式）では、正答率が高く、全国値を上回る結果だった。
- ・分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題（記述式）では、正答率が全国値を上回っているものの、ほかの問題に比べ正答率は低い結果だった。

○「図形」

- ・角の大きさについて理解しているかどうかをみる問題（選択式）では、全国値を上回る結果だった。
- ・台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題（選択式）や基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題（記述式）は、全国値を上回るものの、正答率が50%程度と低く、課題が残る結果だった。

○「変化と関係」

- ・伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる問題（選択式）の正答率は、全国値を上回る結果だった。
- ・「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題は、全国値を上回る結果だったが正答率は低く課題が残る結果だった。

○「データの活用」

- ・目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題（記述式）では、正答率が全国値を上回る結果だったが、数値は36.9%と低い結果だった。
- ・簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる問題（選択式）は、正答率は全国値を上回る結果だった。

●算数科における成果と今後の改善点

国語同様全体的に全国値を上回る結果であり、知識の定着という部分では日ごろの学習の成果が発揮されたと見える。また、無回答率は全体的に全国値を下回り、問題に対して前向きに答えることができていると言える。一方で、求め方や答えを言葉や数を使って説明したり、問題からわかることを言葉や数で説明したりする記述式の問題において、正答率が低い傾向が見られた。授業の中で答えを導く際に、なぜそうなるか性質や考え方を理解し、自分なりにまとめてノート等を書く活動について重点的に取り組んでいく必要がある。

●理科《概要》

概要 ・平均正答率は、全体として全国値を上回る結果であった。

- ・「地球」を柱とする領域では、全国値を上回る良好な結果であった。

- ・記述式の問題では全国値を上回るものの、正答率は低く課題が残る結果であった。

【各領域の成果と課題】

○「エネルギー」

- ・身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題（選択式）では、正答率が全国値を上回る結果だったが、19.2%と低い結果だった。
- ・電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる問題（短答式）では、正答率が高く、全国値を上回る結果だった。

○「粒子」

- ・水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったか

を検討し、表現できるかをみる問題（短答式）では、正答率は全国値とほぼ同じ結果であり、正答率は 50.8%であった。

- 水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる問題（選択式）や水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる問題（選択式）では、全国値を大幅に上回った。

○「生命」

- ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる問題（短答式）や発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題（選択式）の正答率は、どちらも全国値を大幅に上回る結果だった。
- レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる問題（記述式）の正答率は、全国値を上回る結果だったが正答率は 32.3%だった。

○「地球」

- 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題（短答式）の正答率は、91.5%と全国値を上回る結果だった。
- 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる問題（記述式）は、全国値を大きく上回る結果だった。

●理科における成果と今後の改善点

全体的に全国値を上回る結果であった。領域により知識・技能の習得には、差があり偏りが見られた。無回答率は全体的に全国値を下回り、問題に対して前向きに答えることができていると言える。

一方で、結果を基に結論を導いた理由を表現したり、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現したりする記述式の問題においては、正答率が全国値を上回っていたが、数値は低く、無回答率も他に比べると高い結果であった。今後は授業で、気づいたことなどを自分なりにまとめてノート等に表現する活動を重点的に取り組んでいく必要がある。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- 朝食を毎日食べる児童の割合、毎日同じ時刻に寝起きをしている児童の割合ともに全国値より高い。
- 1日あたり、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）や動画視聴を長時間（2時間以上）する児童の割合は、全国値を下回っている。
- 自分にはよいところがあると答えた児童は全国値を上回っている。将来の夢や目標を持っていると回答した児童が全国値をわずかに下回っている。
- 人が困っているときに進んで助けると回答した児童の割合は、全国値をわずかに下回っている。いじめは、どんな理由があってもいけないことだとほとんどの児童が思っている。
- 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるかを問う質問で肯定的に回答した児童の割合は、全国値をわずかに上回っている。
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと回答した児童の割合は、全国値をわずかに下回っている。
- 学校の授業以外に平日や休日に1日当たりどれくらい勉強するか（学習塾や家庭教師の学習も含む）という問いに、2時間以上と回答した児童の割合は全国値を大きく上回っている
- 読書は好きですかの質問では肯定的な答えの児童の割合が、全国値を大きく上回っている。
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童の割合は、全国値をわずかに上回る結果だった。



【教科・学習・学校生活について】

- 5年生までの学習の中でタブレットなどICT機器を活用することについて肯定的に回答している児童の割合は、全国値より低い結果となった。
- 5年生までに受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたかの問いに対し肯定的な回答をした児童はわずかに全国値を下回っている。
- 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいるかを問う質問に対して肯定的に回答した児童の割合は、全国値をわずかに下回っているが、90%を越えている。
- あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますかという問いに対して、肯定的に回答した児童の割合は、全国値とほぼ同じである。
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますかでは、肯定的意見が全国値をわずかに上回っている。
- 国語の授業の内容はよくわかりますか、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますかでは、肯定的な回答は、90%前後と高数値であった。一方、国語の勉強は得意、内容がよくわかると回答した児童の割合は、全国値より高いが、60%から70%という結果であった。
- 国語の授業で、「目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたりしながら、伝える内容を考えているか」、「目的に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いているか」を問う質問に対して肯定的に回答している児童の割合は、全国値を下回っている。
- 国語の授業で、「目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけていますか」での肯定的な回答は全国値を下回っている。
- 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合は、90.2%と高い数値である。一方、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えると回答した児童の割合は80.3%と下がる。どちらも全国値をわずかに下回っている。
- 算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますかという質問に肯定的に回答した児童の割合は、全国値を下回っている。
- 理科の授業の内容はよくわかりますかの質問で、肯定的な意見は全国値を上回っている。また、理科の勉強は得意ですか、理科の勉強は好きですか、理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますかでも肯定的な意見が80%以上である。将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますかでは、全国値を上回るものの37.9%である。

3 今後の取り組み

今回の調査結果は、昨年同様国語算数とも全体としては全国値を上回っており、理科においても同様で、概ね良好な結果でした。知識・理解を問う問題だけでなく、思考・判断・表現を問う問題においても、ほとんどの問題で全国値を上回っています。しかし一方で記述式の問題では、一部で全国値を下回る問題があり、その他の問題も全国値を上回ってはいるものの正答率が低いという、ここ数年と同じような課題が見られました。学習環境を問う調査の結果でも、国語科において自分の考えを工夫して文章に書いているかを問う質問や、説明文から必要な情報を見つけているかを問う質問は、全国値を下回っています。本校ではここ数年、子どもたちが自分の考えを持ち、友達と伝えあいながら考えを深めていく授業づくりに継続して取り組んできました。今年度はさらに、国語科に重点を置いて、授業づくりの基礎となる教材研究に絞って研究を進めています。引き続き国語科の授業改善に取り組み、書く力の育成に努めてまいります。

生活習慣の調査結果からは、朝ごはん摂取率が高く、ゲームや動画視聴等の時間は短い一方、塾や家庭教師も含めた学校の授業以外の1日あたりの学習時間が2時間以上と答えた割合が全国値を大きく上回るなど、昨年同様ご家庭での学習環境が整っている様子が見てとれる結果でした。また、自分には良いところがあるという自己肯定感の高さを示す項目でも全国値を上回っていることは非常に意味のある結果だと捉えています。一方で将来の夢や目標を持っていると回答した児童は今年も全国値をわずかですが下回っています。

教科・学習・学校生活に関する調査結果からは、これも昨年度と同様の傾向として教科の学習の日頃の生活への活用や将来の社会生活との結びつきなどに関する項目で全国値より低い結果がありました。

学習内容の理解だけにとどまらず、日常生活や将来の社会生活とのつながりも感じながら、自分の目標や夢に向かって努力する児童を育てていけるよう、教職員一同引き続き授業力、指導力の向上に取り組んでまいります。今後とも、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。